

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2670400155
法人名	医療法人健康会
事業所名	グループホームぬくもりの里
所在地	〒600-8863 京都市下京区七条御所ノ内本町15 (電話)075-314-1211

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成20年5月7日	評価確定日	平成20年6月10日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.7 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 1階建ての 1階 ~ 1階部分
------	-------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有(期間ヶ月/均等償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1500 円			

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.6歳	最低 72歳	最高 90歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人健康会京都南病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市内において、地域医療を推進してきた南病院が高齢者の暮らしを支えようと、1991年に老健の運営を開始し、当ホームは京都市の要請を受けて1998年に開設された。開設にあたっては地域住民への説明会を繰り返し、10年経った現在不安は解消し、病院や老健への信頼感がホームにも寄せられている。更地に新築で建設されたホームは木をふんだんに使って山小屋風に建てられており、温かみがある。施設的なところは全くなく、天井が高いため圧迫感がなく、ゆったりした落ち着きがある。遠方に住んでいたり、関係が遠かったりする家族が多いが、毎月利用者の様子をていねいに書いた手紙を送付し、家族交流会を開催するなど、家族との関係は良好である。長年認知症ケアに携わってきた管理者と年代がさまざまな職員は高い介護力をもっている。一人ひとりの職員は自分自身の言葉で理念を語ることができ、「介護とは何か」についてもしっかりした考えをもっている。その結果、ADLが落ちているとはいえ、利用者は自分らしい暮らしをしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された点について、職員の外部研修の受講など、改善すべき点は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたって、職員全員が各項目について、○(できている)、△(もう少し)、×(できていない)の評価をし、話し合っている。意見の違いもあったが、話し合いのなかでお互いの反省になっている。職員は全員評価に関して意義を認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の代表として女性会下京七三学区代表、地域包括支援センター職員。利用者、家族等がメンバーとなり、会議が開催され、記録が残されている。利用者も意見を言っている。地域代表は出席前には地域住民の意見を聞くなど、非常に積極的に運営に参加している。開催回数は少ない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	行事への招待などもふくめて、家族交流会を年3回開催しており、ホームでの懇談会をしたり、一緒に植物園に行ったり、ゆかた祭りに参加してもらうなど、呼びかけている。遠方であったり、関係が遠かったりして、参加家族は半分であるが、ホームと家族との交流が図られている。食事については実際に家族に食べてもらったりするなど、家族からの意見には耳を傾け、改善している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、行事には参加している。地域住民主催の西大路祭りや区民運動会にも参加している。小学生が社会体験学習で見学にきている。近所の住民が毎月薄茶をたてにきてくれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケア理念として「個人の自由と尊厳を大切に、その人らしく生き生きとした生活ができるように努めます。利用者の気持ちやペースにそって、明るく楽しい毎日になるようにします。あたたかく、やさしく、ぬくもりのある生活を家族や地域の人たちと一緒に守っていきます」とし、重要事項説明書に明記している。この理念は法人の理念をふまえて、開設にあたり独自に作成したものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念のなかでも、「あたたかく、やさしく、ぬくもりのある生活」の実現についてはとくに力を入れており、実現していると考えている。職員は理念を自分流にかみくだいて、自分の言葉で話すことができる。京都市のグループホーム第1号としての自負をもって業務に励んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事には参加している。地域住民主催の西大路祭りや区民運動会にも参加している。小学生が社会体験学習で見学に来ている。近所の住民が毎月薄茶をたてにきてくれる。	○	京都市内の高齢化率の高い地域であり、地域住民のつながりの核となるような事業所になるような活動が望まれる。近所の人が気軽に訪問してきて、利用者と交流できることが第一歩ではないか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の受審にあたって、職員全員が各項目について、○(できている)、△(もう少し)、×(できていない)の評価をし、話し合っている。意見の違いもあったが、話し合いのなかでお互いが反省しあうことにより、サービスの改善につながっている。職員は全員評価に関する意義を認識している。前回の評価で指摘された点についても、職員の外部研修の受講など、改善すべき点は改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表として女性会の下京七三学区代表、地域包括支援センター職員、利用者、家族等がメンバーとなり、会議が開催され、記録が残されている。利用者も意見を言っている。地域代表は出席前には地域住民の意見を聞くなど、非常に積極的に運営に参加している。開催回数は少ない。	○	運営推進会議は要綱を作成し、メンバーに委嘱し、2カ月に1回開催し、欠席者には議事録を送付することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課が担当であるが、ほとんど交流はない。	○	行政担当者は当事業所が京都市の第1号グループホームであり、モデルとなるべき事業所という認識のもと、地域に対する種々の取り組みを企画し、その企画にホームの協力をもとめることにより、当ホームがその専門性を地域に還元するような事業を開催し、当ホームとしての社会貢献ができることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には利用者のことを十分知ってもらいたいと思っており、毎月ホームの行事などを知らせるとともに、利用者の様子を手書きの手紙で写真とともに郵送している。手紙は非常に思いのあふれたものであり、ホームや職員の毎日の努力がしのばれる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事への招待などもふくめて、家族交流会を年3回開催しており、ホームでの懇談会や植物園に行ったり、ゆかた祭りに参加してもらうなど、呼びかけている。遠方であったり、関係が遠かったりして、参加家族は半分であるが、ホームと家族との交流が図られている。食事については実際に家族に食べてもらったりするなど、家族からの意見には耳を傾け、改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正規職員は法人内の異動もありうるが、グループホームでの利用者との馴染みの関係を重視しており、短期間での異動はない。パート職員は当ホームで採用しており、異動はない。安易な離職を防ぐために、働きやすい職場、意見が言いやすい職場になるように、努めている。職員会議には同法人の老健から医師や事務長が参加しており、ガス抜きを意図している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員も含めて法人の研修計画があり、新人、中堅、リーダー研修が実施されている。外部研修は情報を提供し、積極的な受講を促している。認知症、食事、リスクマネジメント、感染症、食中毒、プライバシー保護、リハビリテーション、身体拘束、アートセラピー等のテーマが受講されており、レポートが残されている。資格取得にも勉強会等で支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の中堅研修では、他のグループホームでの研修が課題となっており、3～4カ所のグループホームを見学交流している。新人職員やパート職員は交流できていない。	○	職員が他のグループホームを気軽に訪問し、そこでの時間の流れと職員の対応を見ることは、自分の業務の振り返りになるので、研修の意味でも、他のグループホームとの交流が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたってはまず見学してもらい、様子を知ってもらっている。利用者同士の関係に最も気を遣っている。利用が始まった後は、職員がよりそって、自分のことも話しながら、利用者の話をよく聞くようにしている。職員の年代がさまざまなので、利用者との関係を築きやすいと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人とともに過ごし支えあう関係を築くためには、認知症について、頭でわかっているだけではなく、心でわかっていないとできないと考えている。認知症の人のアンバランスなどこころを支えるために、認知症の人にゆったりとした暮らしをしてもらうために、職員は黒子として力を発揮している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込により、相談記録や介護サービスの利用情報、医療情報、家族構成等の情報を収集している。利用者や家族の意向も聴取されている。利用者の生活歴については「思い出ノート」「プロフィール」等を記録し、利用者が話した内容等が記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申込により訪問面接し、介護と医療の情報を収集している。その後利用者や家族に訪ねてもらい、利用者・家族の意向と医師の意見を踏まえて介護計画書を作成している。最初は1カ月くらいの仮介護計画で出発している。介護計画はどちらかというと身体介護が多く、利用者の生活の楽しみという点で不十分である。	○	利用者本人や家族の意向を聞きだすには困難な点もあり、また具体的な希望は少ないことも多い。しかし、少しでも述べられた希望は介護計画に盛り込むことと、介護計画はマイナス面の補助ではなく、プラス志向で立てること、利用者から聞いた生活歴を生かした介護計画を立てることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンス会議を開催し、利用者全員について検討している。会議には医師や利用者自身も参加している。カンファレンス会議の記録はその時々課題についての結論が記録されており、介護計画の評価ではない。毎日の介護日誌は時間をおいて「行動記録・訴え」「要点」「会と記録」の項目で書かれているが、介護計画の項目に添ったものではない。	○	毎日の介護日誌は、介護計画の項目にそって「実施したかどうか」「実施した結果の観察、実施できなかったときの理由」「実施した結果、あるいは実施できなかったときの考察」が必要である。この介護日誌が介護計画の評価につながり、カンファレンスの根拠になることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院は遠方の場合には家族にお願いしているが、近い場合は同行支援している。ホームの近くに美容院があり、そこにお連れする人もおり、また管理者がカットしている人もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科医が毎月2回往診してくれ、また訪問看護師が毎週1回きてくれる。いずれも緊急時のオンコールにも対応してくれる。歯科医と歯科衛生士も毎週往診してくれ、口腔ケアをしてくれる。法人の医療機関には認知症専門医がおり、連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「グループホームぬくもりの里における重度化した場合の対応に係る指針」が明記されており、契約にあたって利用者・家族から同意書を書いてもらっている。それによると、「当ホームにおいて基本的には看取りはおこなわない。ただし、家族等が看取りを強く希望した場合は話し合いをもつ。話し合いの結果、看取りに関する合意がなされた場合、看取りの計画を作成し、実施する」とされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声かけについては、職員は十分注意している。トイレの戸が開いている場合は職員はさりげなく閉めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はおおむねあるが、利用者のペースにそった暮らしを支援している。職員は利用者にたいして指示的にならないように、十分注意している。		

京都府:グループホームぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを十分把握したうえで、1週間の献立をたて、スーパーから配達してもらっている。野菜が多く、栄養バランスに配慮した、高齢者の食べ慣れた献立である。調理や後片付けのできる人は手伝っている。お好み焼き、焼きそば、たこ焼きなどは喜んで手伝ってもらえる。巻き寿司をまいたり、おはぎをつくったり、パースデーケーキは手作りである。回転寿司を食べに行くこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後が多いが、午前に入る人や夜間に入る人にも希望に応じている。毎日入る希望も支援しており、マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝い、食器洗い、食卓拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、外掃き等をおこなっている。1日1室をピカピカにしようという目標をたて、利用者も窓拭き、障子の棧払い等を手伝う。楽しみは塗り絵、貼り絵、書道、かるたとり、しりとり、計算ドリル、ゲーム等に取組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日でも行く人があり、少ない人でも外気に触れるようにしている。小学校庭の花見、藤森神社、松尾大社、植物園などへのドライブに行く。以前は奈良へ一泊旅行をしたが、ADLの落ちている利用者が増えてきて、最近は行けなくなっている。デパートで働いていた利用者を連れて行ったとき、知人に会えて大喜びしたり、以前住んでいたところへお連れするなど、個別外出にも取組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドア、非常口、勝手口等、日中は施錠されていない。玄関ドアにはセンサーがつけられているが、音がうるさいということはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防に関しては消防計画があり、防火管理者、消火器、感知器が設置されている。避難訓練は夜間想定もふくめておこなっており、地域住民の参加もある。水、食料、救急医療や薬品、乾電池等の備蓄も準備されている。今後は地域住民との災害時の協力の話し合いが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量の記録がある。水分について1日1000ccを目標にマニュアルを作成し、1日10回にコップ13杯を提供するとともに、必ず確認するようにしている。栄養バランスとカロリー値については献立を立てる時に配慮しており、肉、魚、卵、豆製品、野菜等がバランスよく配置されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は木が豊富に使われており、天井が高いので、狭さを感じず、圧迫感がない。玄関には下駄箱や生け花があり、また廊下が狭く家庭的である。廊下の壁には利用者の絵や書の作品、窓際に小さな飾りなど、親しみやすく、落ち着いた雰囲気を出している。食堂以外に廊下の2カ所に少し広い場所があり、利用者や職員の憩いの場や遊びの場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、洋服ダンス、整理ダンス、机、テレビが備え付けられている。入居にあたって家具や道具を整理してきた人が多く、持ち込みは少ない人が多いが、仏壇、人形、時計、小さな飾りなどが持ち込まれている。ホームで作成した作品を飾っている人もいる。		